



令和2年度 第3回 ケアアカデミー & フォローアップ研修 受講者の声（アンケートより一部抜粋）

1 質疑応答

1. 担い手育成として、住民を対象に出前講座を開催する場合の場所はどこか。

対象者や規模に応じて、町内自治会館、公民館、いきいきプラザ・いきいきセンター等での開催実績があります。

2. コロナ禍で、できなくなったことは何か。

コロナ禍における地域活動の困りごととしては、感染症対策のため、屋内での活動、とりわけカラオケや飲食を伴う集まり・居場所の開催が難しくなったことです。

また、会場使用には施設管理者の許可が必要です。感染リスクを鑑み、会場の使用制限も少なくありません。そのため、コロナ禍で、活動場所の確保が難しくなりました。

これらのことから、生活支援コーディネーターとしては、ラジオ体操やグラウンドゴルフ、ウォーキング等、屋外での活動に注目しています。

3. 地域住民と福祉職が繋がる際に、気をつけていることは何か。

地域ささえあいづくりの主役は、地域で暮らす住民です。地域の伝統や歴史に敬意を払い、実情や心情等を尊重して、歩調を合わせつつ、好機を逸しないよう努めています。

また、地域の力学を鑑みつつ、押したり引いたりするさじ加減（調整力）や、決して諦めない粘り強さも必要です。

2 感想

- 自分が思っているよりも地域資源がたくさんあった。
- 多職種連携の必要性が分かった。
- 今後、もう少し深く地域に関して学んでいきたいと思う。
- 地域に関わる職種は、様々な相談や地域の悩みに対応できるよう、支援策の引き出しが必要だと思った。
- 施設職員として地域と施設を繋ぐ方法や、住民として地域へ貢献する方法を考えていきたい。新しい生活様式の中でもできるような地域活動・繋がりづくりについて学んでいかなければと感じた。
- 地域に関わる職種についたら、地域の方々が気軽に足を運べる居場所を作りたいと思った。地域の方々の繋がりを大切にしたい。
- 施設の交流スペースを活かして、イベントをするのもいいなと思った。

以上

